

今秋三里塚・反合総決起を確認！

日刊 動労千葉

80.8.27 No. 518

8・24 全国労働者交流集会大成功！ 仙台

八月二十四日、仙台市・白鳥ビル大ホールにおいて開催された「八・二四 八〇年代を闘う全国労働者集会」は、全国から六四労組団体、三五〇名が結集して開催された。集会は、激化する鈴木反動体制内閣の軍事大国化攻撃と対決し、今秋三里塚・反合闘争へ総決起し一大突破口をきりひらき、もって、八〇年代を闘う戦闘的労働運動の全国潮流形成をかちとるものとして圧倒的成功をおさめた。

本山・動労千葉・三里塚・女川はじめ、全国から闘う六四労組・団体が結集

集会は、十三時すぎ、会場を立錫の余地なく埋めつくした参加者の熱気溢れる中、全金本山長谷組組織部長、仙台中電阪本氏の司会によって進められた。

冒頭、主催者を代表して、全金本山八重樫委員長が、労働運動の原則を堅持し八〇年代を闘う全金本山の決意を明らかにした。

次いで連帯のあいさつの最初に三里塚芝山連合空港反対同盟の北原事務局長がたち、「反対同盟は本山の闘いをわがものとして闘う。現在の革新政党、労働組合が闘いを放棄している中において労働連帯の新たな潮流を強化することが課題だ。九・一五三里塚に結集し鹿港への闘いをさらに進めよう」と力強く語られ、満場の大きな拍手をうけた。

つづいて、東北の地で、反原発闘争をたたかう女川原発設置反対三町期成同盟会阿部会長、動労ジェット闘争支援共闘会議浅田代表、労働運動評論家の高島氏、さらに三菱独占の中において闘い抜く三菱長崎造船船組西村副委員長からそれぞれ闘う決意の表明がなされた。

「路なき路を切り抉きつつ、そして踏み固めつつ」闘う潮流形成に向け奮闘する―全金本山労組基調報告―

基調報告にたった全金本山中野書記長は、本山闘争一〇年の歴史は、労働組合の原則「一人の首切りも許さない」を守りぬくための、資本・二組・右翼ガードマン・権力、そして組合上部機関との攻防の歴史であり、労働運動の右傾化のなかであってさけて通ることのできない過程であった、と語り、激動の八〇年代をきりひらくために、①労働組合の原則を死守する。②労働運動右傾化に抗して闘うが故の統制処分を怖れ原則をなげす

てはならない。③三里塚闘争を頂点とした農・漁民・地域住民・学生との連帯した運動をまきおこす。④右翼的労働統一を阻止し、三里塚を基軸とした新たな全国的潮流を形成する。以上四点を確認し、実践しようとして提起され全員の拍手で確認された。

三里塚へ―反合闘争を基軸に今秋闘争へ―動労千葉・特別報告―

特別報告にたった動労千葉中野書記長は、帝国主義と対決する闘う全国潮流の強化発展の軸は、三・二集會路線をより深化することだ。八〇年代に勝利する唯一の闘いは反動や反革命の敵対を敢然と打ち破って三里塚闘争を労働運動の最重要課題として真正面から闘い抜くことだ。今秋、すべての闘う労働者は「全てを三里塚闘争にむかって組織せよ！九〇十月三里塚決戦に総決起せよ！ここに軍事大国化攻撃を粉碎する道がある。」を合言葉に決起しよう」と熱烈に訴え、全参加者の決意と決起を促した。その後参加した十三の労組からの決意表明が行われ、集會アピールを採択し、インターを合唱、団結ガンパローをもって十八時、成功裡のうちに集會を終了した。

反動鈴木内閣の軍事大国化攻撃に対決し、全国の闘う労働者・農・学・人民の総決起をもって、今秋三里塚・反合・反戦闘争を闘い抜いていこう。



全国から闘う労組が総結集。壇上は基調報告に立つ全金本山労組。動労千葉からも全支部から代表が参加した。(8月24日、仙台)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)四三三・七二〇七